

りん
凜として立つ



ささ ながれ

笹流ダム

— 土木遺産・函館市の水道施設群



写真提供：函館市

函館市の水道は、1889（明治22）年、日本人技師の手で完成した日本初の近代水道施設でした。亀田川に水源を求め、赤川の沈澱池から函館山麓の元町配水池に送られた水が広く給水されました。しかし、函館はその後も急速に発展し、慢性的な水不足が続いたため、1923（大正12）年には亀田川の支流に日本初のバットレス形式の笹流ダムが建設されました。

バットレスダムは、水圧を受ける壁面をコンクリートの格子状の扶壁と横桁で支えるダムで、当時高価だったコンクリートを節約するものでした。

当時の堤体は1985（昭和60）年に改修された新しいダムの堤体にすっぽり覆われて見ることはできませんが、バットレス形式が引き継がれています。

元町配水場や笹流ダムは、2001年度土木学会選奨土木遺産、08年度近代化産業遺産群に認定されています。

緑や紅葉を楽しみながら、土木技術の近代化に思いを巡らせてみませんか。

表紙：笹流ダム（函館市赤川町）

堤体の高さ約25m・堤頂の長さ約199m・有効貯水量576,000m³

笹流ダムは、約32,000世帯分の給水を担っている

目次：はこだて水道発祥の地・元町配水場管理事務所

創設当初の番人詰所の姿に復元し、現在も使用している

裏表紙：元町配水場水道記念施設にて